

活躍している同窓生

矢印は自分に向けよ！

株式会社 坂東太郎 代表取締役社長 青谷 英将（高47）



私は、境小学校・境第一中学校を卒業後、境高校に入学し、小学校から続けたサッカー部に入学しました。高校時代、学校生活というよりはむしろ部活の思い出しかないぐらいにサッカーに明け暮れていました。

また、家族ともまともに話をした記憶もほとんどありませんでした。

そんな私が、大学受験に失敗し高校卒業後、浪人生活を送りなんとか大学に進学が決まりました。その大学生活の中で気づいた事、それは親への感謝でした。高校時代は大好きなサッカーに集中するあまり、勉強もろくにせず、親に対しての感謝の言葉も言ったことはありませんでした。

ある日、大学の友達が何気なく言った一言で気づかされました。

「お前って親に恵まれているよな。」

改めて考えてみると、学費は払ってもらっているし、仕送りだってもらっている。周りの仲間の中には、仕送りを貰わないで自分で学費を稼いだり、バイトで生計を立てたりしている人がいる中、本当に自分は恵まれているなと

感じました。この時から少しずつ自分の考え方が変わっていきました。今までは自分は恵まれていない人間だ、家族にも相手にされていないと考えて生きていましたが、自分は家族や周りの人から生かされているのだという事を気付かされた瞬間から、親や周りの方たちに何か自分が出来ることを「返さない」という気持ちになりました。

しかし、思っているよりなかなか行動に移すことが出来ずに大学を卒業して社会人になり、初めての仕事が外食産業専門のコンサルティング会社でした。そこで2年間お世話になっていてる時に全国の経営者の方とお逢いし、お話を聞かせて頂く機会を頂戴しました。

その後思ったことが、本当に親に恩返しをするなら、親と同じ仕事をして少しでも楽にさせてあげたいという思いでした。私の両親は飲食店をやっているもので、どうせやるなら飲食店の現場をやらないと一緒に仕事をして迷惑をかけてしまうと思い、地元から離れた飲食の激戦区九州福岡の博多に、あてもなかつたのですが履歴書を持って働かせて頂けるところを探しに行きました。そこで初めて入った店が、雰囲気・接客・料理と素晴らしいお店

でした。カウンターに通されたのですが、スタッフの方にお話をしたところすぐに面接をして頂き、採用して頂きました。そこから博多で仕事をさせて頂き、自分自身の飲食業の原点を勉強させて頂きました。

そして、その店の店長との出逢いが、私のカッコいい大人の価値観を180度変えてくれました。今までの私のカッコいい人とは、高級なスーツを身にまとい、ブランドの時計や財布を持ち、高級車に乗っているような見た目重視の人でした。しかし、その店長はそんな見た目の要素よりも、仕事ぶりそのものがカッコいい仕事人間でした。それは毎日の仕事の中で、一番大変な洗いの仕事を率先してこなしている店長の姿を見たときでした。特に週末の店内は大変混雑しており、お客様対応



坂東太郎土浦おつ野店 今年3月オープン

はもちろん、洗い場に溜まる食器は洗い場だけに留まらず、外の螺旋階段にまで並んでいる状態でした。そんな大変な洗い場の担当者に感謝の声を掛け笑顔でスピーディーに洗い物を片付けている店長の姿を見て、この人は仕事に差を付けず、どんな仕事も大切にこなしている、その姿こそ本当のカッコいい姿であると感じたのです。その店長の姿は、坂東太郎に入社してから、私の基本となっています。

こうして色々な人に出逢い、沢山の気付きをもらい、現在の私がいます。「人間大好き」という経営理念を抱えているにもかかわらず、人間が好きと言えなかつた自分、人に積極的ではなかつた自分、何かあつたら矢印を相手に向けて、自分は悪くないと思つていた自分、従業員の気持ちを考えず、いい店長だと思つていた自分。そんな、今考えても恥ずかしくなってしまうような自分がいたことも、私を育ててくれた両親を始め、兄弟、仲間、私を支えてくれた全ての方との出逢いを経て、前向きに捉えることが出来るようになりました。まずは矢印を自分に向けること、相手に求めるよりも自分を変えていく事で、周りの人に感謝することが出来るようになりました。これらの経験は私にとってかけがえのない宝物です。この宝物を武器に、これから一人の人間として、会社の社長として、全スタッフと共に成長し、日本一の会社をつくって行きます。

思い出

校章「螢雪」に想う

海野光雄(中14)



私達が憧れの「白亜の殿堂」と仰いでいた境中学校に入学し「螢雪」の学帽を被ったのは、昭和16年(1941)。

しかし日中戦争が激しくなってきた為か、学帽は直ぐ戦闘帽に変えられてしまった。

(私は、しばらく学帽でいたら叱られ...)入学してみると、当時の中学校は5年制だったので、新入生からみると上級生は皆大人にみえ怖さも感じた。

学校生活の中で一番辛かったのは何んといっても軍事教練の時間で、敬礼の拳手の形が悪い!!軍人勅諭の暗唱が出来ていない!!藁人形を突き刺す腰の入れ方が悪い!!等といったピンタ。正にこの時間は恐怖と緊張だけだった。私は子供心にも何故、陸海軍の学校ではないのにこんなことをするのか不思議でならなかった。

それに比べ楽しかったのは園芸の時間で、銃器庫と背中合わせにあった園芸倉庫には、鎌その他の道具が納められ、ここに入ると銃

器庫に入った時のような冷たさはなく、むしろ温かさを感じた。当時の境中は前庭と中庭そして池があり校舎や体育館そしてグラウンドの格納庫が並び、校庭はテニスコート、バスケットコート、鉄棒肋木砂場、そしてトラックその横には同じ広さの芝生(これは主として軍事教練とグライダー滑空の時使った)その最後の角には、小銃や機関銃の実弾射撃の訓練場として小山が鎮座していた。学校全体の周囲はすべて垣根で、すぐ近くに農園もありそれらはすべて生徒達の手作業で保たれていたのだ、芝生や垣根の刈り込みの『技』が大切となった。最初の頃の芝刈りはやはり荒刈りだったが、3ヵ月もすると上手になり不思議なことに垣根もうまく出来るようになった。しかし、この時間でも嫌なことが一つあり、それは畑の肥料としての糞尿を運ぶことで、当時トイレの後始末も生徒の手作業で行われ、作業は大きな柄で便槽から現物を肥桶に汲み入れ、天秤棒の中心にこれをつるし2人で担うのだが、歩く時微妙にその波長が

合わない、桶の中身がボコボコ、ピチャピチャと鳴り出し現物が飛び散るのには本当に閉口した。しかし、この時間は友人と色々な話が出来たので楽しい一時となった。時は流れ、太平洋戦争も不利になつてきた関係か、1億総動員とか玉砕とか特攻だとかと云われ出し、中学生(3年4年5年生)も学徒動員令により古河の近くの三菱重工業という軍需工場に狩り出され、魚雷艇のエンジンを作るこゝとなつた。毎日の食べ物乏しく夜勤も始まり空腹の極みとなる。そこで皆んなで小銭を出し合い近くの農家でサツマ芋等を買ひ飢えを凌いでいた。ある日、工場演芸会が予定され出演者にはサツマ芋が出るという話だったので、私達の部屋でも「アツツ島玉砕の歌」を唱うことになり練習、当日会場へ行ってみると演壇にはうまさうなサツマ芋が山と積まれているのを見て心が躍った。そして、いよいよ出番となつた時、突然の空襲警報、皆一斉に逃げたが敵機は北の方に去つたとかで、再び会場に行ってみると、なんとあの輝いてみえたサツマ芋がすべて消えているのにはビックリ、ガックリだった。正に「アツツ島玉砕」ではなく「サツマ芋の玉砕」と感じ、悲しい思いであつた。



昭和19年8月 4年2組滑空班(20名)、滑空機大利根号をバックに

為の学習で、学習室の電気は10時消灯あとは廊下のかすかな小灯の下で『立勉』となつた。ある夜、手紙を書いていたら消灯となり暗くなつた瞬間、月光が皓皓と射し込んできたので手紙を書き終えることが出来、この時程月光の明るさを強く感じたことはなかつたと同時に『螢雪』の明かりも勉学に使つたと云う中国の故事に、もう一つこの『月』を加えてもよいのではないかと思ひ、以後、私は丸く明るい月の光に触れると、懐かしいうあの校章の『螢雪』を想うようになった。

(一)内旧姓 3月31日現在

本校の同窓会費は、卒業時に終身会費として、5400円を納めていただいています。これだけでは、毎年ギリギリのやりくりをしている厳しい状況です。同窓会費を補填する意味合いをも込めて、出来るだけ多くの方々からご協力いただければありがたいと思います。

(注) 以下の賛助金協力者芳名は金額、卒業年、50音順氏名の順で掲載しました。記載漏れや誤記の無いよう気を付けたつもりですが、お気づきのことがありましたらご連絡ください。

贊助金協力者芳名

(一)内旧姓 3月31日現在

50000円	木村 吉蔵 栗原 勇晨	中5 高11	茂木さち子(鈴木) 山中 勇 今泉 優	高10農 高11農	野村 正八(松村) 飯塚 一清 小林 進 石川 謙 倉持嘉一郎 増淵 謙 石塚 浩啓 齊藤 久(木村)	中7 中8 中8 中12 中12 中13 中14 中15 中16 中18	中川 祐聖・隆子 長谷川 邦子 高島 良一 渡辺 昇 波田 雅子(春日) 篠崎 敏夫
--------	----------------	-----------	---------------------------	--------------	--	---	--

齊藤隆雄	北島清	清水良三	遠藤仁吉	大久保雅夫	小松崎亮	稲毛田新一	木村久喜男	中野勝男	西村邦雄	戸塚英夫	吉原茂	國崎喜代治	齋藤勝男	市村有	菅谷功	大久保文吾	大里和雄	食持希佐	小松崎登喜子	須長行雄	秋元收彌	市村文子	榎場静英	菊地一郎	飯塚あさ子	岡田圭介	櫻井百合子	竹内清史	沼田美智子	野本英男	荒井義雄	荒井義雄	忍田利夫	柿沼益雄	萩原まつ子	石川重治	石川重治	倉持建雄	齊藤礼二	塚原なを子	丹羽孝男	佐怒賀政守	青木秀	井上智子	内海俊雄								
齊藤	隆雄	北島	仁吉	大久保	小松崎	稲毛田	木村久	中野勝	西村邦	戸塚英	吉原茂	國崎喜	齋藤勝	市村有	菅谷功	大久保	大里和	食持希	小松崎	須長行	秋元收	市村文	榎場静	菊地一	飯塚あ	岡田圭	櫻井百	竹内清	沼田美	野本英	荒井義	荒井義	忍田利	柿沼益	萩原まつ	石川重	石川重	倉持建	齊藤礼	塚原な	丹羽孝	佐怒賀	青木秀	井上智	内海俊								
中7	中8	中10	中11	中12	中13	中14	中15	中15	中15	中16	中17	中17	中18	併5	高1	高1	高2	高2	高2	高2	高2	高3	高3	高3	高3	高3	高4	高4	高4	高4	高4	高4	高5	高5	高5	高6	高6	高6	高6	高6	高6	高6	高6	高7	高7	高7							
木村キヨ子	白砂忠男	生井盛	根本信	野口豊江	梅田典男	船橋三夫	船橋三夫	山中忠男	會田久夫	青木恒男	岩井政子	卯木昌子	浦本郁子	鈴木全二	鈴木孝雄	中山貞夫	森福次	植竹平一	林一進	石黒悦子	木村正夫	木村節子	柴崎久夫	鶴見弘	張替通世	岡慶子	落合忠夫	木村明美	倉持直雄	高松光宏	野村初見	林義明	梁河文雄	島田まさ子	石塚美枝子	内田文枝	木村政史	齊藤由雄	須賀君代	高畑圭子	中島常子	仲野善賢	古谷進	堀江勝男	影山和夫	金子志郎	賀嶋きみ	金賀志郎	染谷哲夫	高野健治			
高7	高7	高7	高7	高7	高7	高8	高8	高8	高8	高8	高8	高9	高9	高9	高9	高9	高9	高9	高9	高9	高9	高9	高9	高10	高10	高10	高10	高11	高11	高11	高11	高11	高11	高11	高11	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高12	高13	高13	高13	
内藤栄子	野口卓正	野村敏夫	吉田昌	石川兼雄	大久保薫	木村雅文	佐怒賀義文	鈴木浩	船橋正司	青山由紀子	板垣幸武	菊地幸久	染谷義正	庭山和子	野村昌雄	矢澤康由	食持重男	張替敏子	吉田洋子	津山忠雄	堀江征子	森田誠	後藤弘平	齊藤光	武井佐智子	中島文夫	中村久子	仲村和子	羽鳥武夫	浅野和雄	櫻井明	染谷すみ子	戸田幸子	石塚美枝子	針谷好弘	半村英夫	藤巻サヨ子	大野良子	木村照雄	逆井信義	佐野俊修	鈴木好	関久男	関明彦	土橋とよ子	中岡孝	新谷和雄						
高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	高13	
平田由紀子	福島弘子	若旅弘子	石山武男	矢沢栄子	小川綱江	神坂治代	島田恭一	杉本博	鈴木芳男	鈴木良子	田村景子	成島信泉	野口芳枝	加藤利雄	細谷源明	児矢野雄	柴崎喜芳	千葉等	野村竹志	石塚光	篠崎薫	岩崎和子	上園恵美子	大野梅子	大野昭子	小田昇	利信	鈴木要二	竹村和也	根本恵子	森田誠	若旅利子	五島久次	石塚久男	宇都木きく江	香取幸子	神原みゆき	坂巻俊之	関口豊喜	中村道子	三ツ泉正夫	堀栄子	荒木とも	岩上きみ子	押川まつえ	木村康子	食持律子	関口晃					
高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	高18	
高安志子	千葉操	成島孝子	羽部幸枝	吉沢一夫	秋田数男	上形八重子	金久保万里子	金山保子	木村邦昭	逆井定男	田村明男	塚田貞美	馬場安夫	張替正夫	古矢道子	相良文雄	青木和之	稲葉喜美子	大竹智子	加藤洋子	木村玲子	永井美代子	永井とし子	中山栄子	新谷友康	根本富美江	野口久雄	萩谷京子	橋本昭枝	早田昭枝	引田幸子	増田悦子	間中克己	松永克己	丸山三枝子	宮本和枝	森三恵子	八代光輝	山下孝子	吉川泰憲	吉田昌子	若松奈子	星野文男	宇津木とし子	内海喜一郎	大里実	大越きよ子						
高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	高23	
大谷武	岡田千代子	岡田加代子	落合明美	河原寿美乃	木村孝夫	倉持正美	栗原さよ子	國府田照子	小島明子	小林洋子	古谷野新一	齊藤美佐江	板井みい子	鈴木桂子	関根八重子	高嶋春男	高嶋春男	田中喜美子	田沼敏子	戸塚久枝	永井美代子	永井とし子	中山栄子	新谷友康	根本富美江	野口久雄	萩谷京子	橋本昭枝	早田昭枝	引田幸子	増田悦子	間中克己	松永克己	丸山三枝子	宮本和枝	森三恵子	八代光輝	山下孝子	吉川泰憲	吉田昌子	若松奈子	星野文男	宇津木とし子	内海喜一郎	大里実	大越きよ子							
高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26	高26



作品の寄贈

今回、蛭雪会報をお届けしたところ、旧制中学第14回生に東京芸術大学に進まれた榎本文弥という方が居られ、故人となられましたが生前に作品を母校に寄贈したい旨の意向をお持ちだったと伺いました。この情報は、榎本氏の同期生の海野光雄氏から寄せられたもので、海野氏を通して榎本家のご遺族に話していただき、遺作5点の寄贈の了承をいただきました。過日、同窓会役員3名で中野区の榎本様宅に伺い、作品を預かってきました。



「竝」(ならぶ)88×89cm

校内に展示し、少しでも今の生徒の刺激になればと思います。

編集後記

昨年創刊号をお届けしてから、早いもので1年が経ちました。今回もたくさんのお原稿をお寄せいただき、お陰様で第2号を発行することが出来ました。ご寄稿くださった皆さん、そして協賛金を提供してくださった皆さんの皆さんに心から感謝いたします。ありがとうございました。次号の発行を心待ちにしていただけのような会報を目指して今後も頑張りますので、変わらぬ温かいご支援をよろしくお願い致します。

編集委員 木村 泰之